

所長の部屋



地域の皆さんに知って頂きたいこと

働きながら不妊治療を行う困難さについて

～当所で実施したアンケート結果から～

福島県 県南保健福祉事務所

Ken-nan Public Health and Welfare Office of Fukushima Prefecture

不妊治療について

皆さんは、不妊や不妊治療についてご存じでしょうか？

1. 不妊とは？

妊娠を望む健康な男女が避妊をしないで、性交しているにもかかわらず、一定期間妊娠しないことをいいます。日本産科婦人科学会では、この「一定期間」について、「1年」というのが一般的であると定義しています。

2. 不妊の原因や治療について

- ① 不妊の原因は、女性にあるだけではありません。男性側に原因があることもありますし、検査をしても原因がわからないこともあります。
- ② 男性も女性も、検査によって不妊の原因となる疾患があると分かった場合には、原因に応じて薬による治療や手術を行います。
- ③ 排卵日を診断して、性交のタイミングを合わせる「タイミング法」、内服薬や注射で卵巣を刺激して排卵をおこさせる「排卵誘発法」、精液を注入器で直接、子宮に注入する「人工授精」などの一般不妊治療では妊娠しない場合に、卵子と精子を取り出して、体の外で受精させてから子宮内に戻す「体外受精」や「顕微授精」などの生殖補助医療を行います。
- ④ 不妊治療は、妊娠・出産まで、あるいは治療をやめる決断をするまで続きます。年齢が若いうちに治療を開始した方が1回あたりの妊娠・出産に至る確率は高い傾向がありますが、「いつ終わるのか」を明らかにすることは困難です。治療を始めてすぐに妊娠をする場合もあれば、何年も治療を続けてる場合もあります。

不妊治療の流れ（概略図）

検査

診査所見や精子所見、画像検査、血液検査等を用いて診断し、①男性不妊 ②女性不妊 ③原因が分からない機能性不妊に大別される。

新たに保険適用となった不妊治療

原因疾患への治療

一般不妊治療

タイミング法

排卵のタイミングに合わせて性交を行うように指導する

人工授精

精液を注入器で直接子宮に注入し、妊娠を図る技術。主に、夫側の精液の異常、性交障害等の場合に用いられる。比較的、安価。

体外受精

精子と卵子を採取した上で体外で受精させ（シャーレ上で受精を促すなど）、子宮に戻して妊娠を図る技術。

顕微授精

体外受精のうち、人工的に注射器等で精子を注入するなど人工的な方法で受精させる技術。

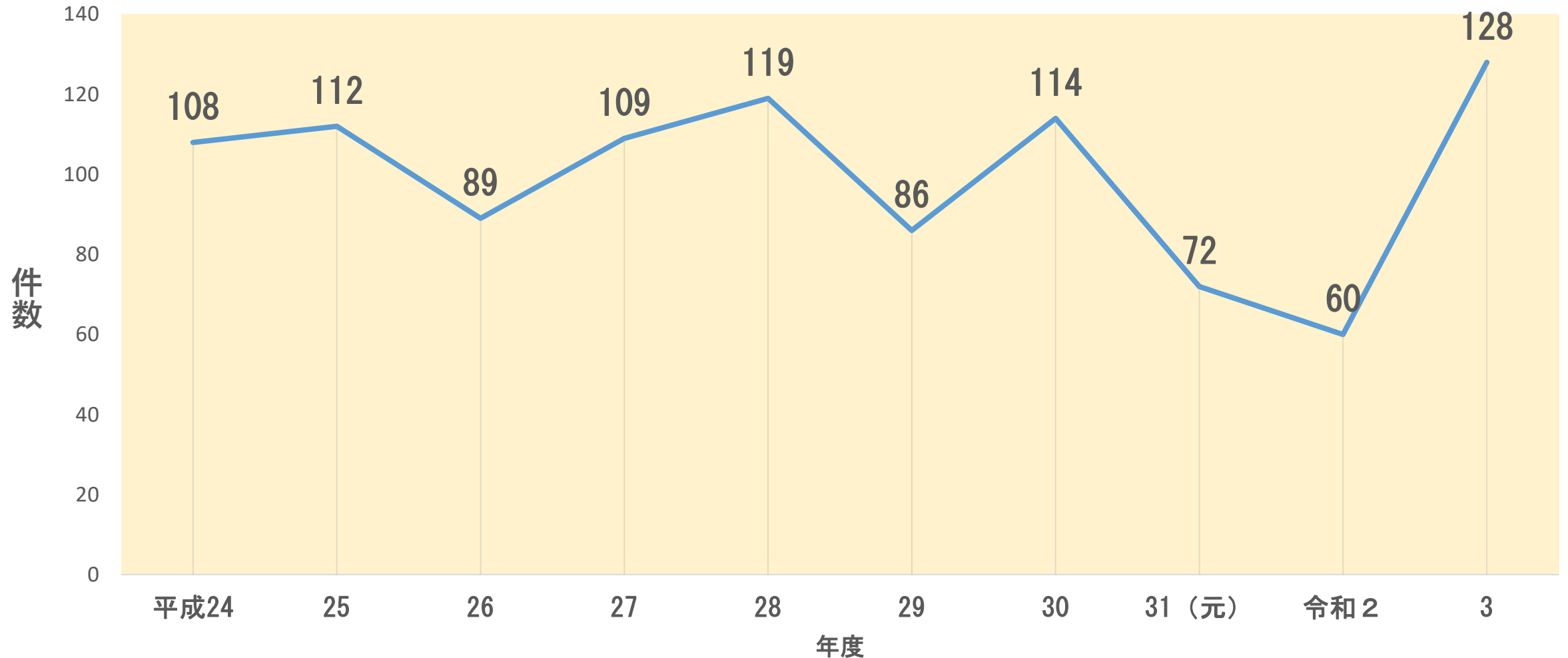
男性不妊の手術

手術用顕微鏡を用いて、精巣内より精子を回収する。→顕微授精につながる。

生殖補助医療

県南地域の特定不妊治療助成の現状

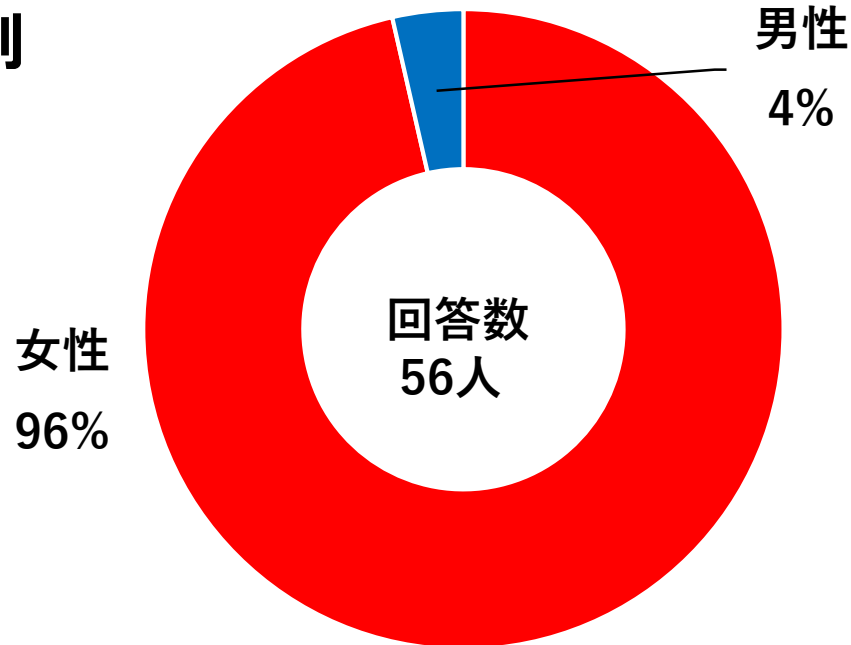
県南保健福祉事務所の特定不妊治療費助成件数の推移



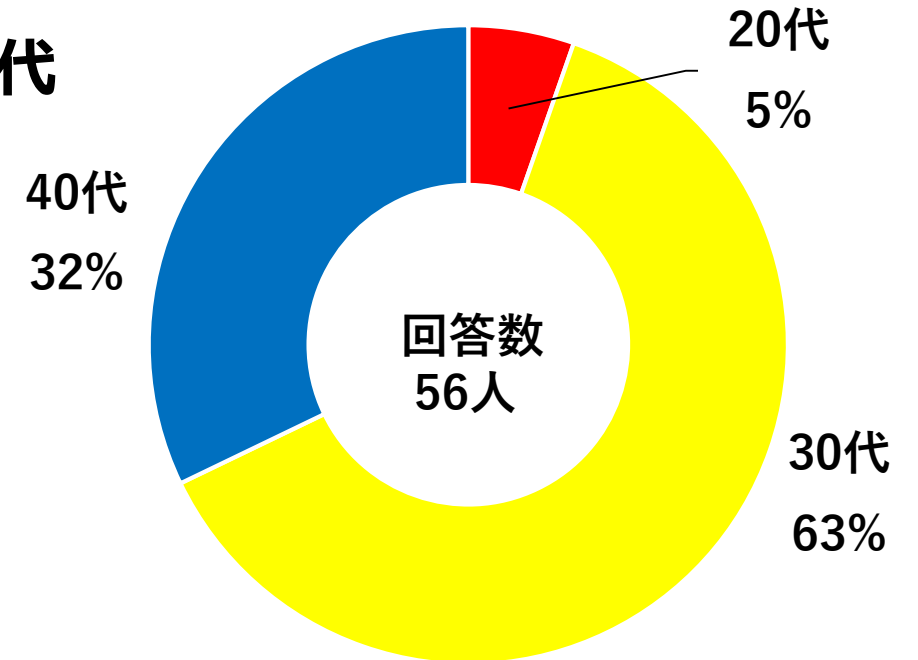
令和3年度中に、県南保健福祉事務所にて、
特定不妊治療費助成事業の申請した者を対象にアンケート調査を実施した

<回答者基本データ>

性別



年代

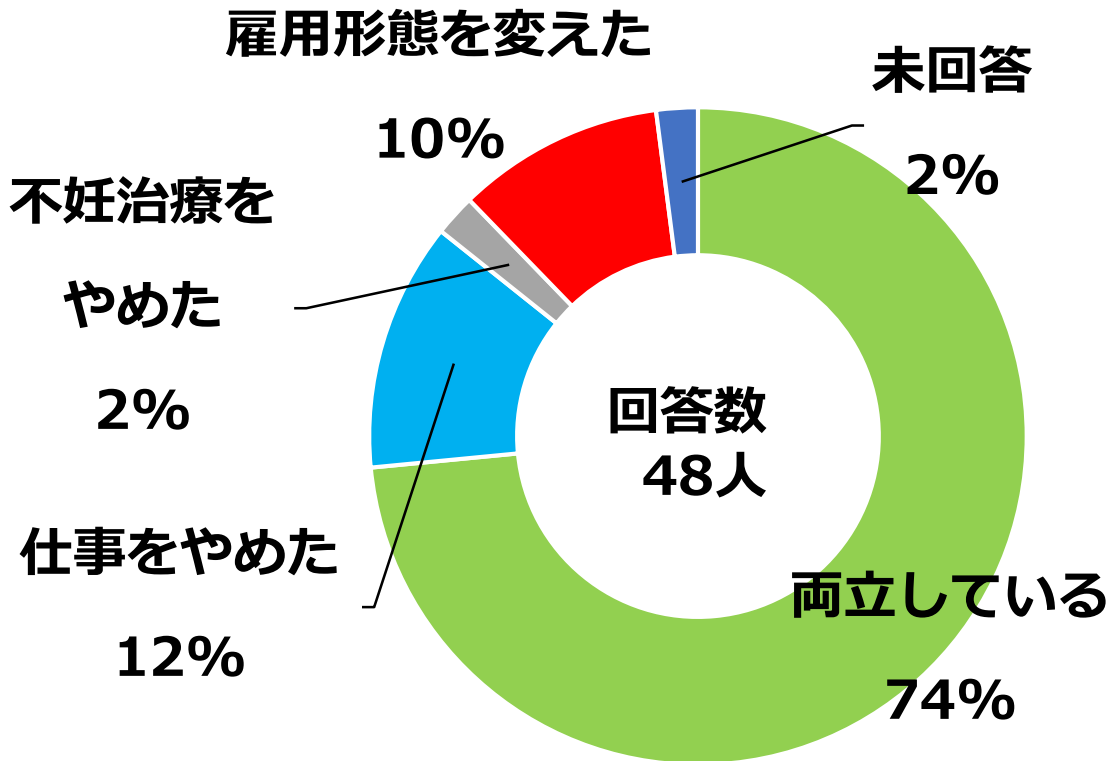


回答いただいた方のほとんどが女性であり、
年齢は9割が働き盛りの30代と40代であった。

仕事と不妊治療の両立について

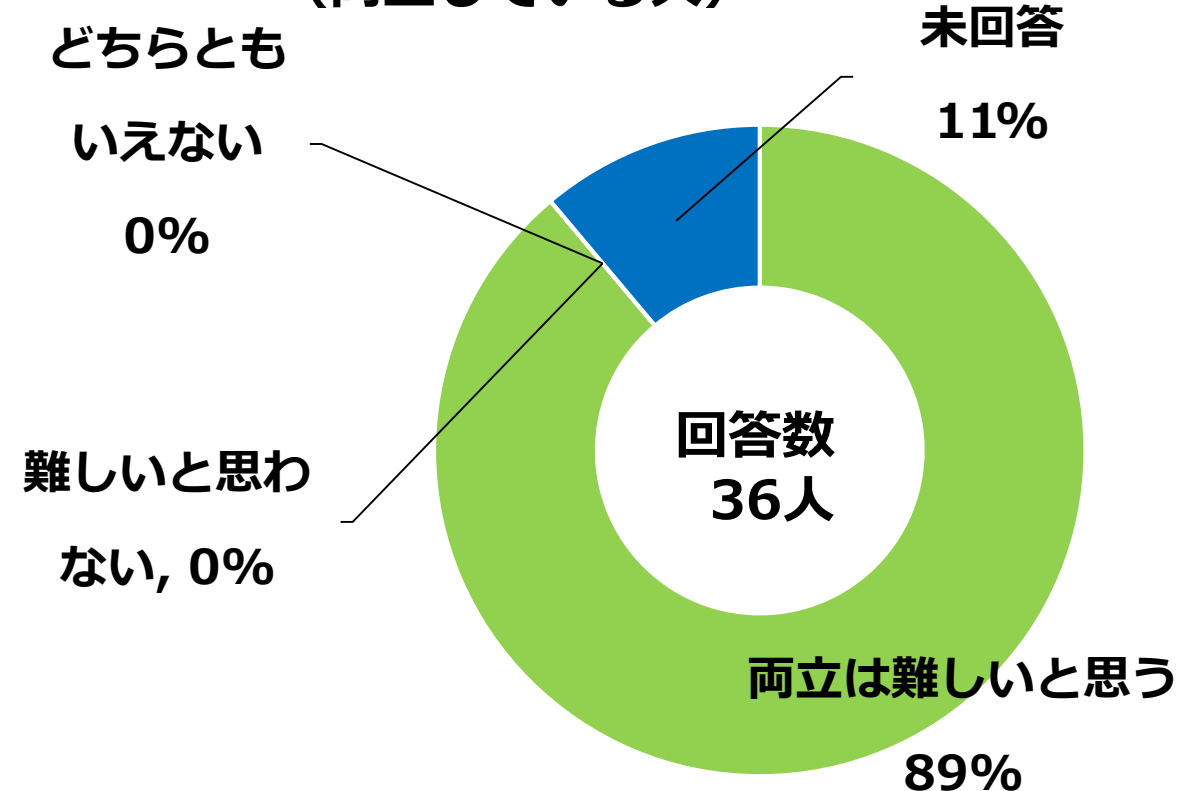
仕事と治療の両立をしているか

(していたか)



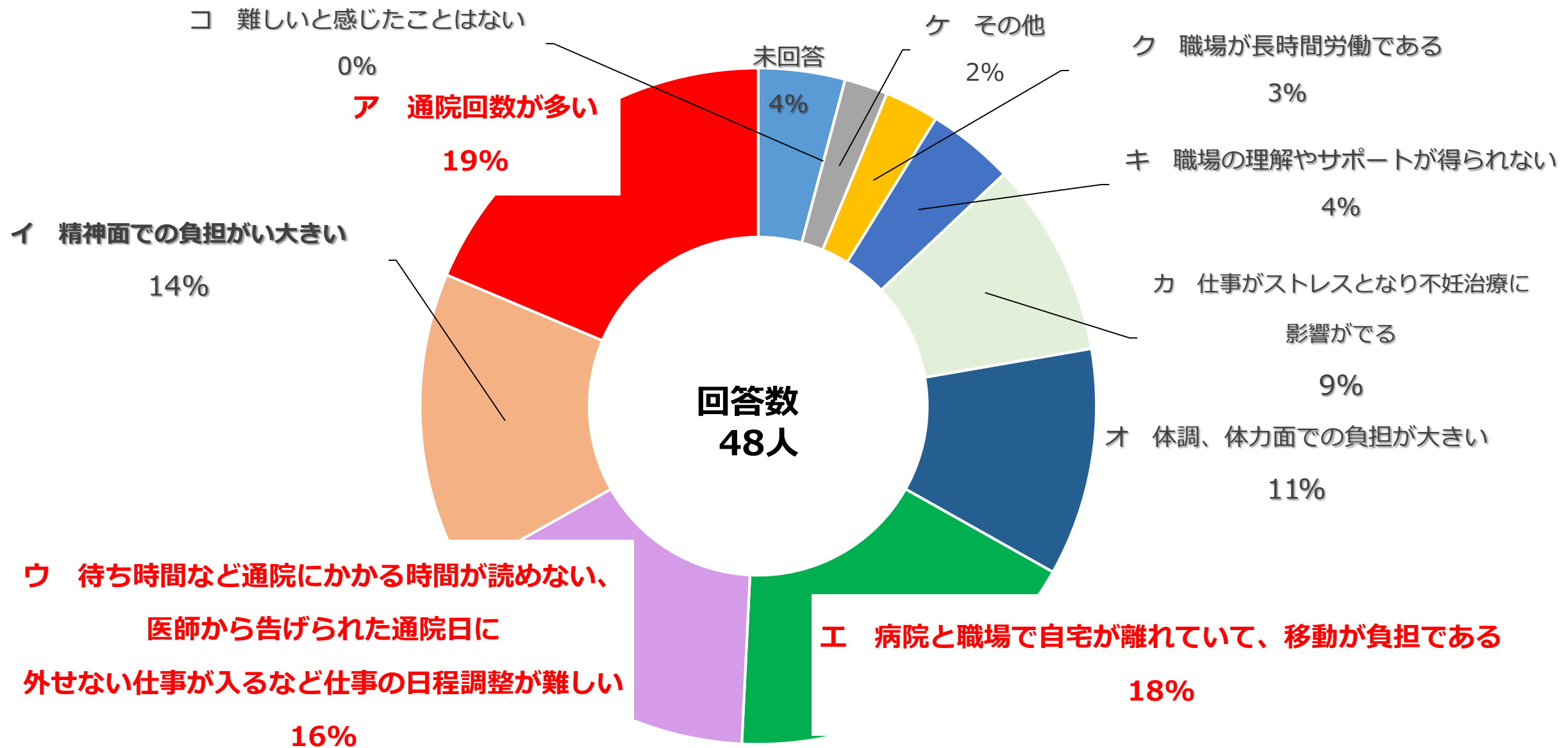
仕事と治療の両立は難しいと感じるか

(両立している人)

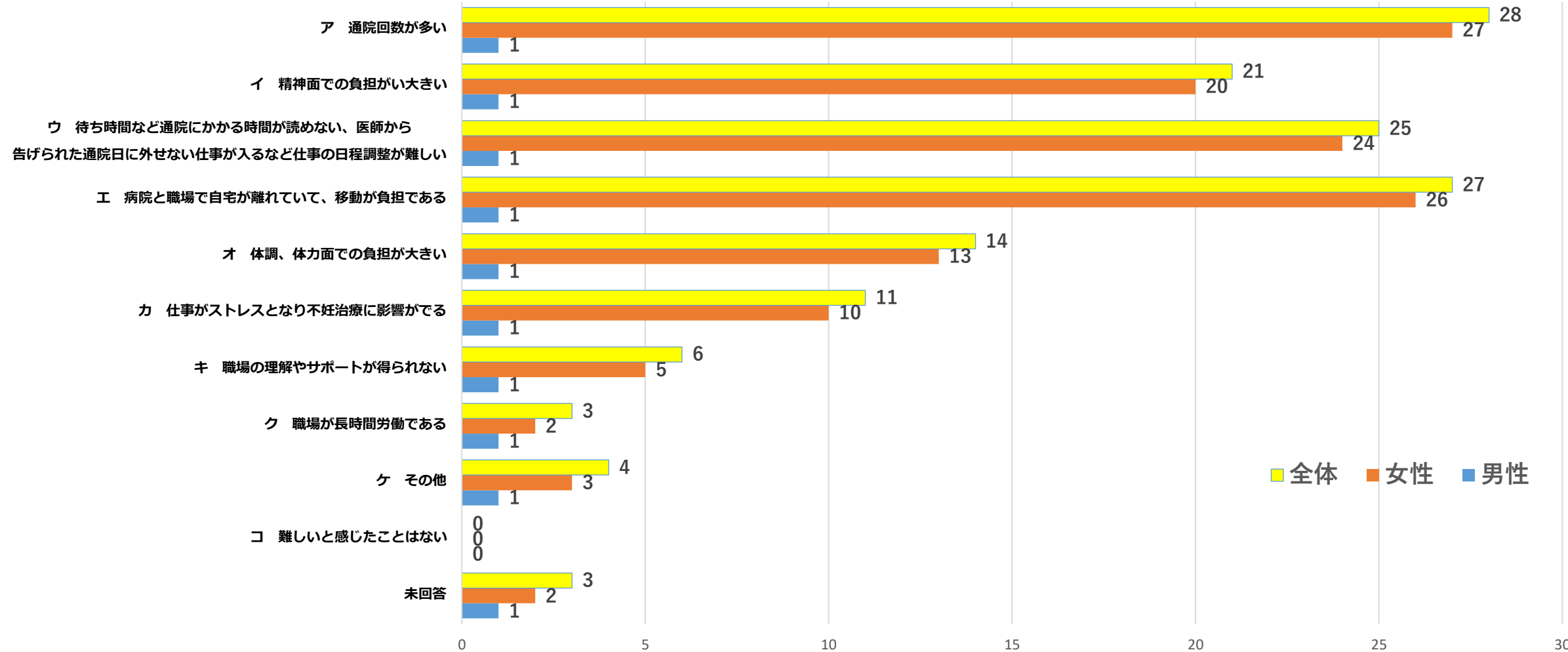


何とか仕事と治療の両立ができているものの、9割近くの人が両立することに難しさを感じている。

両立が難しいと感じたことがある場合、それはどんなことか



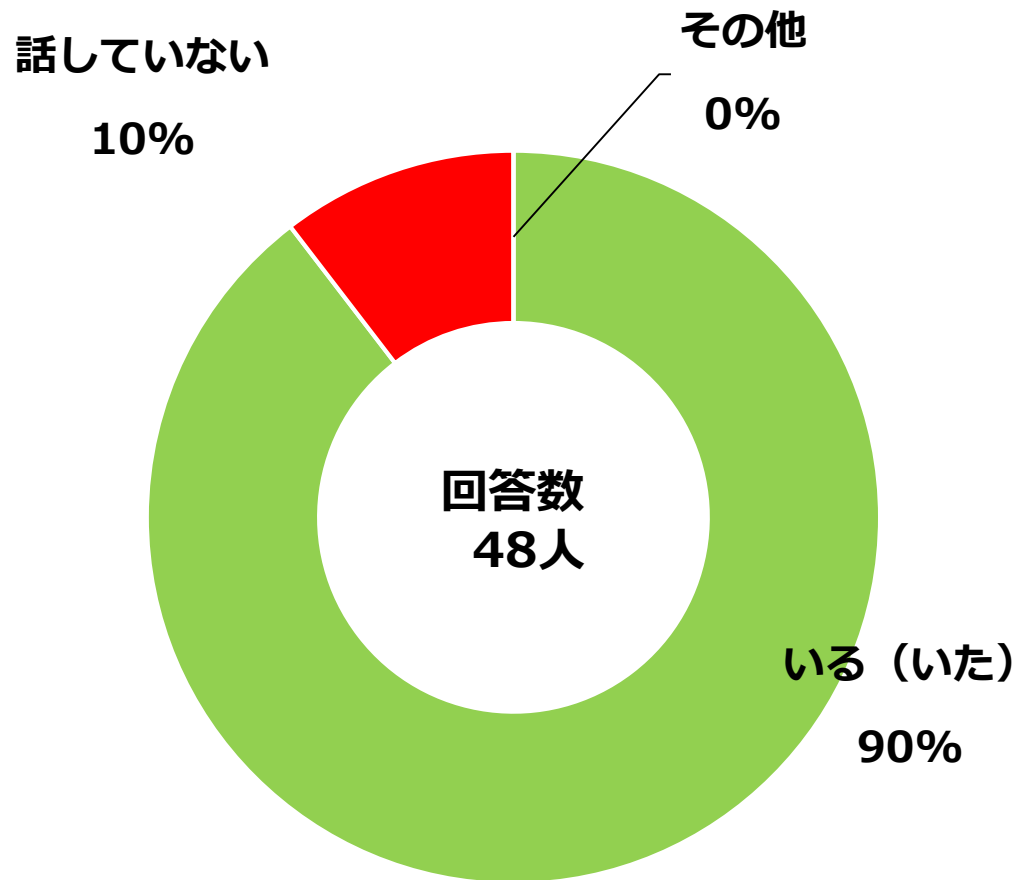
【両立をしている方】不妊治療と仕事の両立が難しいと感じたことがある場合、
それはどのようなことですか。（複数回答） n=32



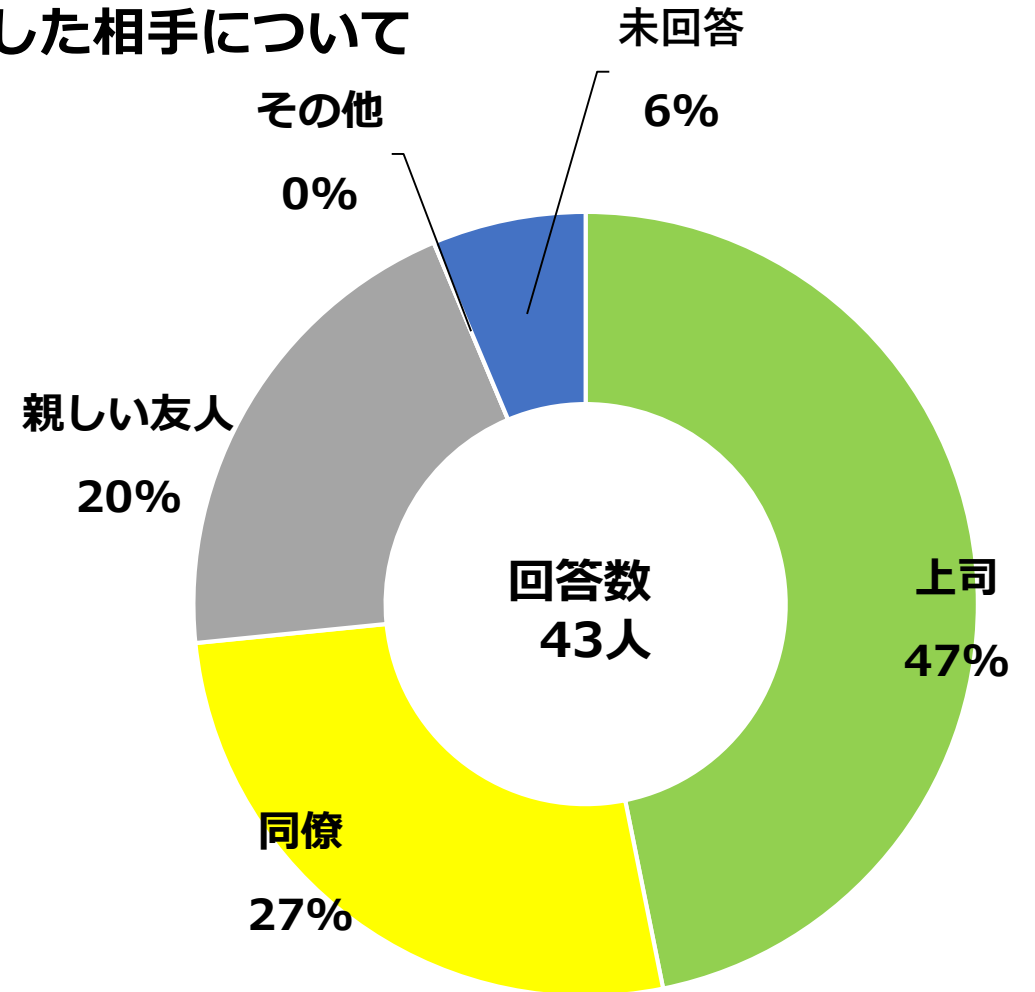
厚生労働省の調査結果と比較し、特徴的だったのは、「エ 病院と職場で自宅が離れていて、移動が負担である」という回答が多かった点である。

職場の理解について

治療について職場の人に話している（いた）か



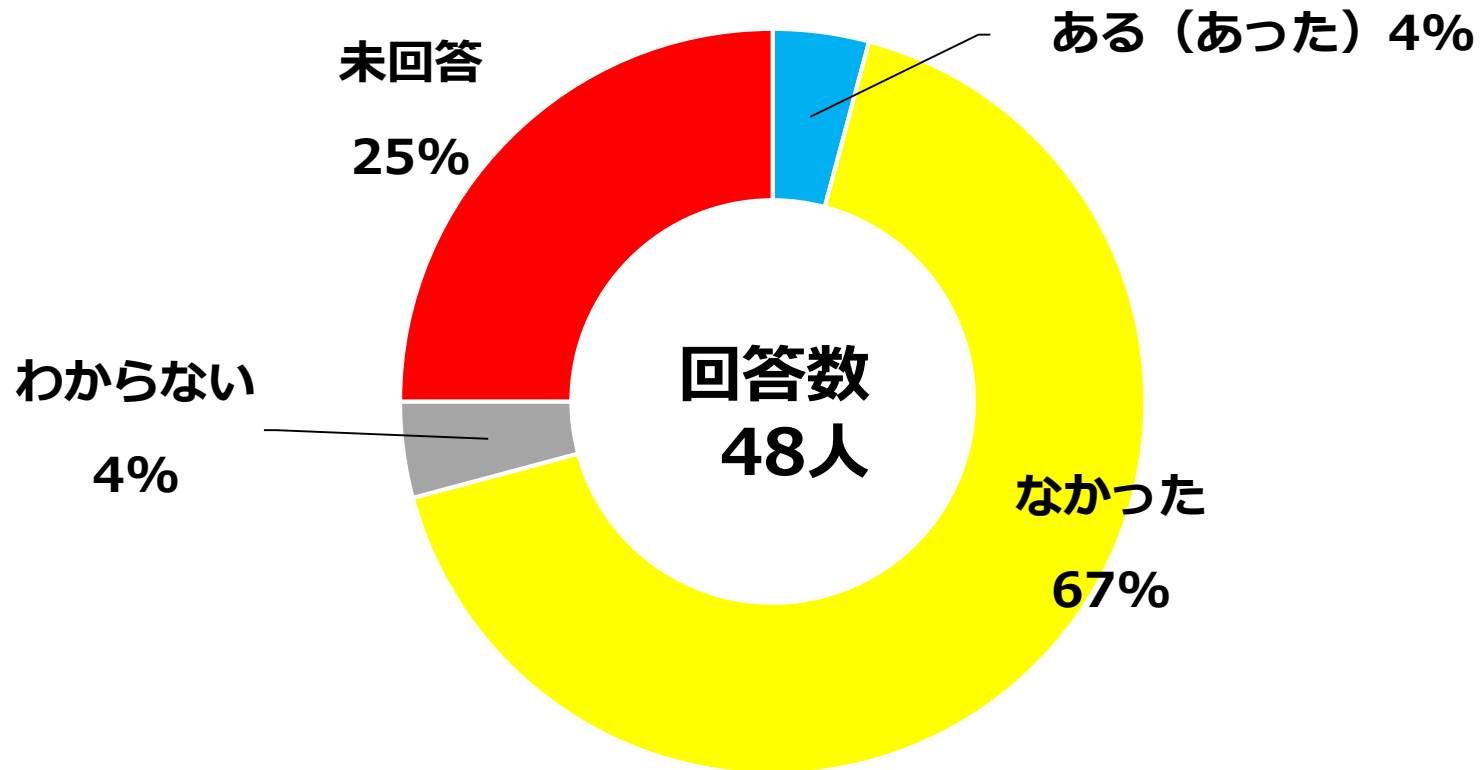
話した相手について



9割の人は不妊治療をしていることを職場の上司や同僚に話していた

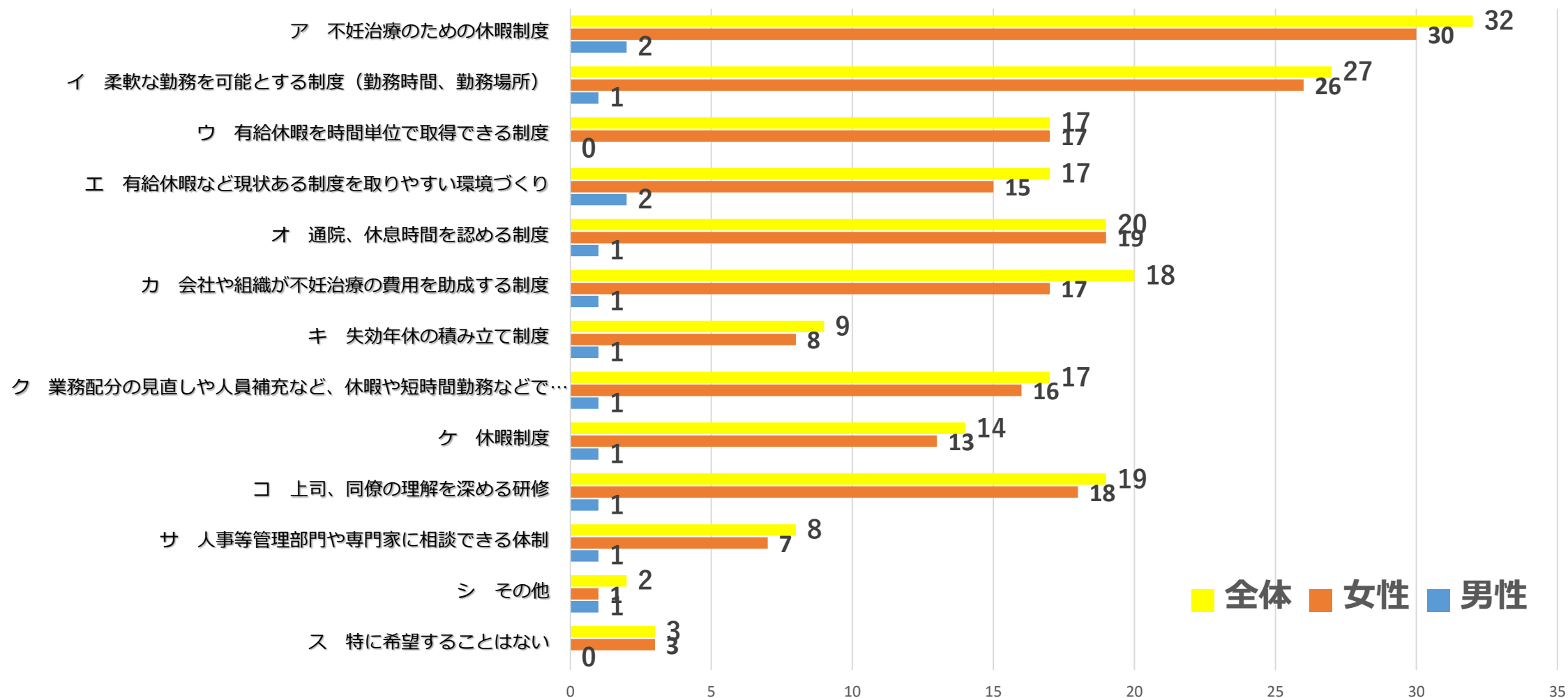
仕事と不妊治療の両立のために希望すること

職場での不妊治療をサポートする制度の有無



約7割の職場では、**不妊治療に関するサポート体制はない現状であった**

仕事と治療を両立する上で社会や組織に希望すること（複数回答）



厚生労働省の調査と本調査で共通して一番多い回答は、「**ア 不妊治療のための休暇制度**」だった。
 県南地域で特徴的だった回答は「**上司や同僚の理解を深めるための研修の開催**」であった。

自由記載より

「仕事と不妊治療の両立のために、会社や組織、社会に求めるもの」

育休や産休のような休暇制度

不妊治療を受けている人に
寄り添ってくれる場所
(相談場所)

同じ悩みを持つ方と交流
できる機会

夫や妻だけでは治療にならない。
夫も治療に行きやすい社会

若い世代のうちから最初の一通りの検査
だけでも気軽に受けにいけるような社会
になってほしい

晩婚化に合わせて、年齢制限も
柔軟に対応すべき

今後のあり方

治療と仕事の
両立

有給休暇がとりやすい

休むために仕事の調整がしやすい

職場に
治療を受けている
ことを話すこと

職場の
不妊治療に対する
理解を得る

同時に行われること

話しやすい雰囲気づくり

職場

上司や同僚の理解を
深める研修の実施

サポート体制の整備

環境整備

理解を
深める

今後の取り組みについて

- 本調査結果をまとめた「リーフレット」による情報提供
→ 企業などの事業体に不妊治療の現状を知ってもらう
- 地域・職域連携推進協議会等の機会を利用した
「不妊治療に関する研修会」の開催
→ 不妊治療とは？ を知ってもらう
- 不妊治療等に係る相談への対応
- 県の「不妊治療ネットワーク会議」へ
「経済的負担」や「医療機関の整備」等、課題の提言
→ もっと治療しやすい環境作りを